

立教大学文学部人文研究センター

イブニング・ミーティング

「御札博士」フレデリック・スタールのみた江戸文化

第2回

話者：滝口 正哉 氏

(学校・社会教育講座 特任准教授)

アメリカの人類学者フレデリック・スタール（1858～1933）は、1909年に再来日して以降、1933年まで合計16回来日しています。彼の当初の目的はアイヌ文化の研究でしたが、東京で千社札を制作して貼る団体に出会い、江戸文化に目覚めます。神社仏閣に貼られる千社札は現在、文化財保護の観点から問題視される一方、その行動様式やデザインが江戸文化を継承している点が見過ごされつつあります。今回はスタールを魅了した千社札の世界をご紹介しますと思います。

文学部の教員が最近どう
いうことを研究している
かをめぐって、ざっくば
らんに話す会です。学部
生も歓迎です。

2024年12月12日（木）18:00-19:00

ロイドホール5階人文研究センター室

どなたでも参加可能です（予約不要・弁当持込可・入退場自由）

お問合せ：人文研究センター（rch@rikkyo.ac.jp）